

山北町
「0歳から15歳までの一貫教育・保育」
基本方針



令和4年2月
山北町
山北町教育委員会

目 次

はじめに	1
山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」イメージ図	2
1 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の導入の背景と目的	3
(1) 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」とは	
(2) 導入の背景	
(3) 目 的	4
2 山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の基本方針	4
(1) 「めざす子ども像」の共有	
(2) 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進と充実	5
(3) 地域とともにある「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進	
(4) 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」推進体制の確立	
(5) PDCAサイクルに基づく評価と改善	
3 取り組みの方向	6
(1) 「めざす子ども像」の共有のために	
(2) 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進と充実のために	
① 「山北スタンダードカリキュラム」に基づいた実践研究と検証	
② 「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」の編成	8
③ 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」推進の重点内容	
(3) 地域とともにある「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進のために	11
① 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の拡充	
② 一貫教育・保育を支える「チーム山北」体制づくり	
③ 県立山北高等学校との連携	
(4) 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」推進体制の確立のために	12
① 組織体制の確立	
② 切れ目のない支援体制の確立	
(5) PDCAサイクルに基づく評価と改善のために	13
4 今後について	13
(1) 取り組みの形態	
(2) 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」のための運営体制	
(3) コミュニティ・スクールの機能拡張	
資 料 編	14
● 山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」推進検討委員会 委員名簿	
● 推進検討委員会の審議経過	

はじめに

山北町では、平成31年3月、本町がめざす「学びと歴史文化を生かしたまちづくり」の方向性を明らかにし、学校・家庭・地域が連携を図り、町民総ぐるみによる教育の推進をめざす「第2次山北町教育大綱」を定め、平成31年度からの5年間を対象とする山北の教育の方向性を示しました。

また、平成31年4月1日より「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が全面実施となり、3つの園が小学校就学時の具体的な姿「幼児教育の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を共有した幼児教育機関となりました。そのことに伴い、令和2年10月に「山北町の乳幼児教育・保育等のあり方基本方針」を策定し、幼児期における教育が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである認識をさらに強めるとともに、子どもたち一人ひとりの個性や特性に応じた環境づくり、安心して子育てができる支援の充実等を図っていくことになりました。

さらに、急速な社会情勢の変化に伴う保護者の幼児教育・保育に対するニーズの高まりへのきめ細かな対応と情報共有、小学校以降の学校教育のねらいである「生きる力」の育成へのより滑らかな接続と、園・学校間のより深い指導内容等についての相互理解を図る必要性が明らかとなりました。

すべて公立であることから、連携が取りやすい環境にある山北町の幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校では、これまで進めてきた「幼・保・こ・小・中の連携教育」から一貫した教育・保育をめざし、15歳の子どもたちの姿を共有するとともに、コンパクトで適応力がある本町の教育・保育の環境を生かした取り組みを行っていくこととなりました。

近年の激しい社会環境の変化で求められる資質・能力も変化し続けています。こうした激動の時代を豊かに生き、未来を開拓し、郷土を愛し、山北町の将来に広く関わる人材を育成するためには、これまでと同様の教育・保育を続けるだけでは対応できない大きな過渡期にさしかかっています。

子どもたちが身につけた力を生かし、感性や創造性を発揮し、豊かに人と関わっていけるよう、園、学校・家庭・地域が一体となって本町の子どもたちを支えていかなければなりません。

このような考えに立ち、山北町・山北町教育委員会は、本町の教育・保育の長期的な視点をもとに協議・検討を重ね、「山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」基本方針」を策定しました。今後は、この基本方針に基づき、切れ目のない、より質の高い教育・保育を実施できるよう、園・学校・家庭・地域が一体となって教育・保育環境の充実を図ってまいります。

令和4年2月 山北町
山北町教育委員会

山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」イメージ図

山北町豊かな学び研究会

社会の中で 他者とよりよく関わりながら
自分らしく生きることができる人間力¹と社会力²の育成

やまきたこども研究会

山北町学びづくり研究推進委員会

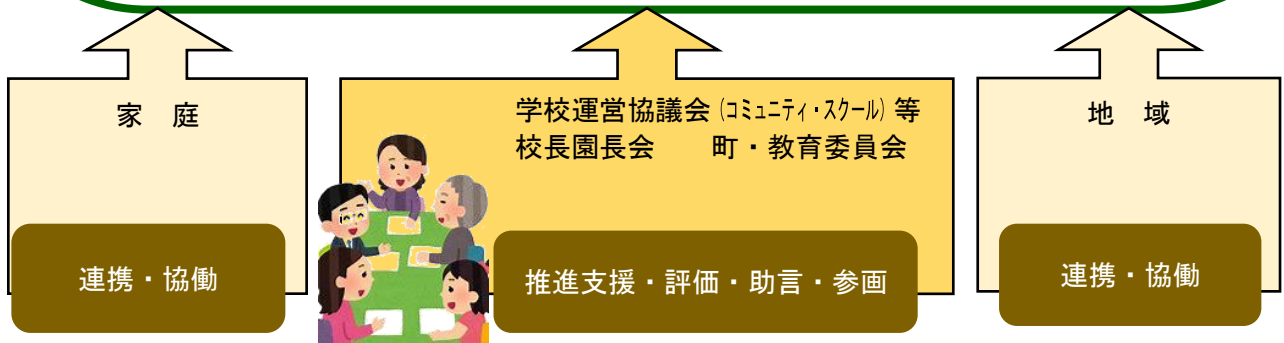


山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の柱

め ざ す 子 ども 像 の 共 有

山北スタンダードカリキュラムを基盤にした一貫教育・保育の推進

切れ目のない 子育て支援体制・支援につなげる情報共有



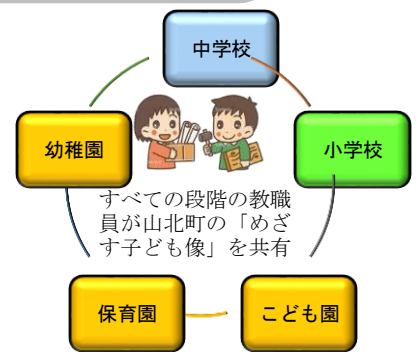
人間力¹) 基礎的な素養を身につけ、自己実現を図っていく力・身近な人とともに適切な関係を結び、生きていく力
社会力²) 社会とかかわりを持ち、社会の一員となって役割を果たしつつ、生きていく力

1 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の導入の背景と目的

(1) 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」とは

幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校段階の教職員³が「めざす子ども像」を共有し、15年間を見通した教育課程をもとに、系統的な教育をめざす教育です。

国や県からは、小中一貫教育の取り組みが示されています。



(2) 導入の背景

○ 第2次山北町教育大綱の策定

人口構造の変化や、社会のグローバル化・高度情報化の進展など、加速度を増す社会変化に対応しながら新しい時代を自ら切り開き、たくましく生き抜く力が子どもたちに求められています。そのために重要となるのが、社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることができる人間力と社会力を子どもたちに育むことであり、その根幹である教育への期待はますます高まっています。

そのような中、山北町では、「第2次山北町教育大綱」を平成31年3月に策定しました。基本目標に「次代を担う子どもの教育・青少年の育成」を掲げ、幼児教育の充実と安心して子育てできる環境づくりの推進、学校教育環境の整備や教育内容の充実による「生きる力」の育成、学校・家庭・地域が連携して子どもたちが心身ともに健全に育つ環境づくりの推進に取り組んでいます。

○ 町内異校種間連携・交流で見えてきた課題

山北町の幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校はすべて公立であるため連携が取りやすく、従前より様々な異校種間連携・交流を進めてきています。

その取り組みの中で、次のような課題が明確になりました。

- 発達段階に応じた教育・保育活動への相互理解を深めること
- 学びの連続性に対する個々の指導者の意識をさらに高めること
- 的確・適切に子どもの育ちを支える支援体制を確立すること

○ 幼児教育と義務教育で統一された「育む（育みたい）資質・能力」

幼児教育の積極的な位置づけが示された「保育所保育指針」（平成30年3月改訂）、「幼稚園教育要領」（平成29年3月改訂）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成30年3月改訂）に、「子どもたちに育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が統一して示されました。幼児教育で示された「子どもたちに育みたい資質・能力」は、「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」（平成29年3月改訂）で示された「子どもたちに育む資質・能力」と一貫しています。

- 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿
- (1) 健康な心と体 (2) 自立心 (3) 共同性
 - (4) 道徳性・規範意識の芽生え (5) 社会生活との関わり
 - (6) 思考力の芽生え (7) 自然との関わり・生命尊重
 - (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
 - (9) 言葉による伝え合い (10) 豊かな感性と表現



子どもたちに「育む（育みたい）資質・能力」

教職員³) 保育教諭、保育士を含む

(3) 目的

こうした背景を踏まえ、本町では、

山北の子どもたちに「社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることができる人間力と社会力」を育成していくこと

を目的に、本町の特色ある教育環境を生かしながら、様々な教育課題・ニーズ等にも柔軟に対応していくために、乳幼児期の保育と学びの場である幼稚園・保育園・こども園と、学校教育の場である小・中学校をつなぎ、「教育」と「支援」を柱にして、0歳から15歳までの切れ目のない連携・支援のできる「0歳から15歳までの一貫教育・保育」を進めていくこととしました。



2 山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の基本方針

本町の保育・教育施設はすべて公立であり、1中学校区内に設置されています。また、長年にわたって異校種間連携・交流に取り組んできた成果として、園・小学校・中学校がスクラムを組み、「チーム山北」となって子どもたちの成長をトータルで見とり、支えていくことができる教育・保育環境が整っています。

このようなメリットを生かし、令和4年度より、「0歳から15歳までの一貫教育・保育」を推進します。

(1) 「めざす子ども像」の共有

本町では、幼児教育のゴールである5歳時と義務教育課程のゴールである15歳時における「めざす子ども像」を次のように設定しています。



5歳

- 明るく元気で思いやりのある子
- 自分で考えて表現する子
- 自然に親しみ、地域とのふれあいを大切にする子



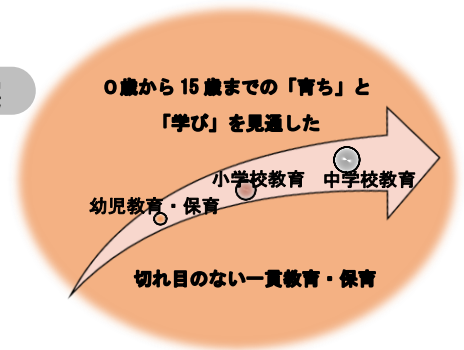
15歳

- 意欲を持ち学びつづける子
- 人とかかわる力や思いやりのある子
- 運動に親しみ、健康で笑顔あふれる子
- 自らすすんで自己表現できる子
- 国際感覚とともに郷土に愛着をもつ子

この2つの段階における「めざす子ども像」を、幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校の全教職員が共有し、それぞれの特色を生かした教育・保育活動を推進します。

(2) 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進と充実

0歳児から始まる保育と幼児教育、義務教育での「育ち」や「学び」を一体的に捉え、15年間を見通した指導方針を立て、切れ目のない教育・保育活動を推進します。



(3) 地域とともにある「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進

学校・家庭・地域が「0歳から15歳までの一貫教育・保育」について共通理解のもと、地域に愛着と誇りを持った子どもたちを育ていけるように、「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」の充実を図り、「めざす子ども像」を保護者や地域住民と共有し、協働して子どもたちの「育ち」と「学び」を支える園・学校をめざします。

また、地域の教育資源や教育力を生かし、子どもたちの学ぶ力を育む教育活動を推進します。

(4) 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」推進体制の確立

「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の目標の実現に向けて、子どもたちの教育・保育にかかわる行政業務の一元化と業務内容の見直しを行い、教育・保育内容の充実、タイムラグのない支援や援助、園や学校への人的・物的な対応をめざします。

(5) PDCAサイクルに基づく評価と改善

「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進による成果は、計画立案（P）、実施（D）、評価（C）の過程で見つかった課題を改善（A）し、次のステップ（PDCA）を繰り返しながら生まれると考えます。

また、このサイクルの中で教職員の意識改革が促され、それが行動の変革となって教育課程や指導の改善につながるなど、様々な場面へのよりよい波及効果が期待できます。

そこで、「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の評価は単年度ごとに行うとともに経年比較し、そこで得た知見を教育課程や教育内容の検討・実践につなげていきます。



3 取り組みの方向

基本方針に基づき、現行の幼稚園・保育園・こども園（以下、園と表記）及び小学校・中学校の連携教育活動を基礎として、「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進にむけた取り組みを進めます。



(1) 「めざす子ども像」の共有のために

本基本方針に示した「めざす子ども像」を、各園・学校において全教職員で共有する場を設けるとともに、「めざす子ども像」に対する各園・学校における現状や課題等を、「山北町教育研究会」等で協議・共有し、教育・保育活動に生かします。

(2) 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進と充実のために

既存の研究組織である「山北町学びづくり研究推進委員会」「やまきたこども研究会」で構成した「山北町豊かな学び研究会」を新たに立ち上げて、「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の教育課程を推進する中核組織とし、これまでの実績を生かした取り組みを推進します。



① 「山北スタンダードカリキュラム」に基づいた実践研究と検証

「山北スタンダードカリキュラム」とは、「社会の中で、他者とよりよく関わりながら自分らしく生きる山北の子ども」を育むために、園・小・中の15か年をとおして子どもたちの「学びに向かう力や姿勢」の基盤となる「非認知能力⁴⁾」に着目し、「コミュニケーション能力」と「運動に親しむ資質・能力」の2つの観点から作成したものです。

○ 教職員の指導力向上

- 山北スタンダードカリキュラムを踏まえた指導方法の工夫や授業づくりを進めます。
- 異校種間の研究会に参加し合う機会を設け、山北の子どもたちのよりよい成長につながる教職員の意識改革、互いの教育・保育についての理解、共通の目線で子どもたちの育ちをとらえる「見とり」の工夫に取り組みます。
- 小・中学校間では、全国学力学習状況調査の分析・活用をとおした本町の児童・生徒の課題を把握し、各校の実態に合わせて研究を推進します。

非認知能力⁴⁾ 読み書き・計算などの数値では測れない能力をさす。目標や意欲、興味・関心をもち、粘り強く、仲間と協調して取り組む力や姿勢等

「社会の中で、他者とよりよく関わりながら自分らしく生きる山北の子ども」を育む 山北スタンダードカリキュラム



中学校教育

◎社会的表現力の育成

小学校教育

◎対話力の育成

幼児教育

◎人と積極的に
関わる力の育成

乳児保育

◎愛着関係の形成

社会の中で、
他者とよりよく
関わりながら
自分らしく生きる
山北の子ども

● 非認知能力の育成

- 【受け取る力】
- ・ 応答的なかわり
 - ・ 話し手の目を見る
 - ・ 安心できる人が傍にいる
- 【伝える力】
- ・ 思いをしぐさや言葉で表す
 - ・ あいさつや返事をする

- 【運動】
- ・ 探索活動を楽しむ
 - ・ 繰り返し試して遊ぶ

● 非認知能力の育成

- 【受け取る力】
- ・ 話し手の目を見る
 - ・ 反応する
 - ・ 最後まで聞く
- 【伝える力】
- ・ あいさつや返事をする
 - ・ 遊びの中で、知っている言葉を使い自分の気持ちを伝える
 - ・ 困ったことを伝える

- 【運動】
- ・ 体を動かして遊ぶ
 - ・ 外に出ること、外で遊ぶことを楽しむ
 - ・ 集団遊びを楽しむ

● 非認知能力育成の 継続と、主体的に 学ぶ力の育成

- 【受け取る力】
- ・ 相手の話を共感的に最後まで聞く
 - ・ 自分の考えと比べながら聞く
 - ・ 相手の考えや意図を理解しようとして聞く

- 【伝える力】
- ・ 自分の立場を明確にし、根拠や理由をつけながら発言する
 - ・ 相手に伝わりやすいように話す
 - ・ 友達の考えとつなげて話す

- 【運動】
- ・ 多様な運動に進んで取り組む
 - ・ 目標をもって継続して運動する
 - ・ 苦手なことにも挑戦し続ける
 - ・ みんなで楽しむ雰囲気を作ること

● 育まれてきた非認知 能力を、社会で生か す思考力・判断力・ 表現力の育成

- 【受け取る力】
- ・ 相手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめる
 - ・ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりする

- 【伝える力】
- ・ 根拠をもとに自分の立場を明確にし、相手が理解納得できるように論理の展開を考えて説明する
 - ・ 場の状況に応じて言葉や表現を工夫し、分かりやすく伝える
 - ・ 合意形成に向け、互いの発言を生かしながら話し合う

- 【運動】
- ・ 生涯学習の視点にたち、運動やスポーツに親しむ
 - ・ 継続的な運動やスポーツをとおして、心身の健康を維持する
 - ・ 運動やスポーツでの交流をとおして、地域社会の一員として貢献する

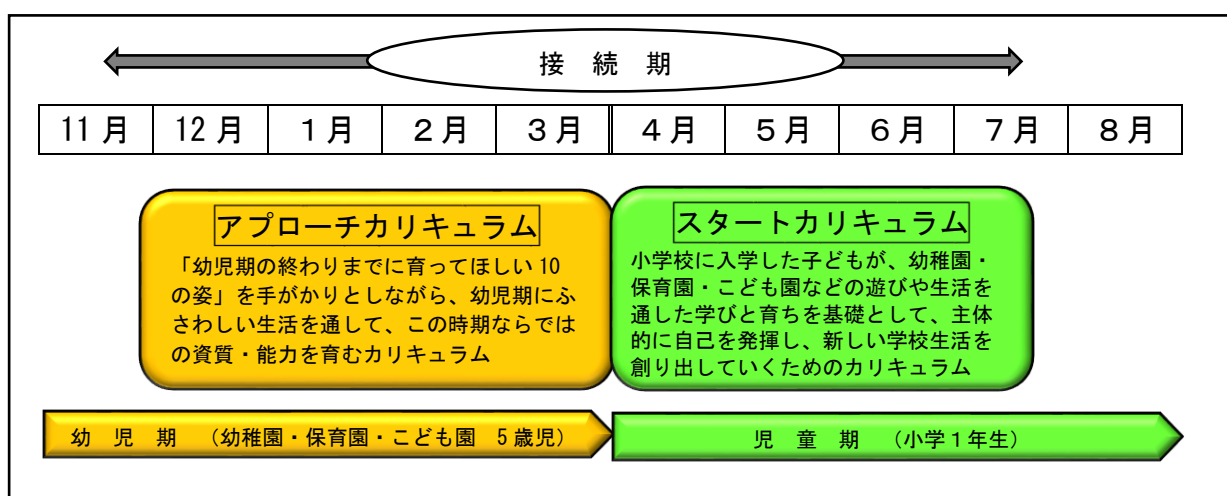
人権感覚・人権意識の涵養⁵⁾

涵養⁵⁾ 自然に水がしみこむように徐々に養い育てること

② 「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」の編成

○ 幼児期から児童期への滑らかな接続のためのカリキュラム

- 各園では「アプローチカリキュラム」を、小学校では「スタートカリキュラム」を編成して取り組みます。
- 子どもの実態に合わせてカリキュラムの見直しを行い、育ちを共有していきます。
- 両カリキュラムを充実させるために、園と小学校の教職員が相互訪問し、子どもたちや指導の様子を参観・情報交換する機会を適切に設けます。



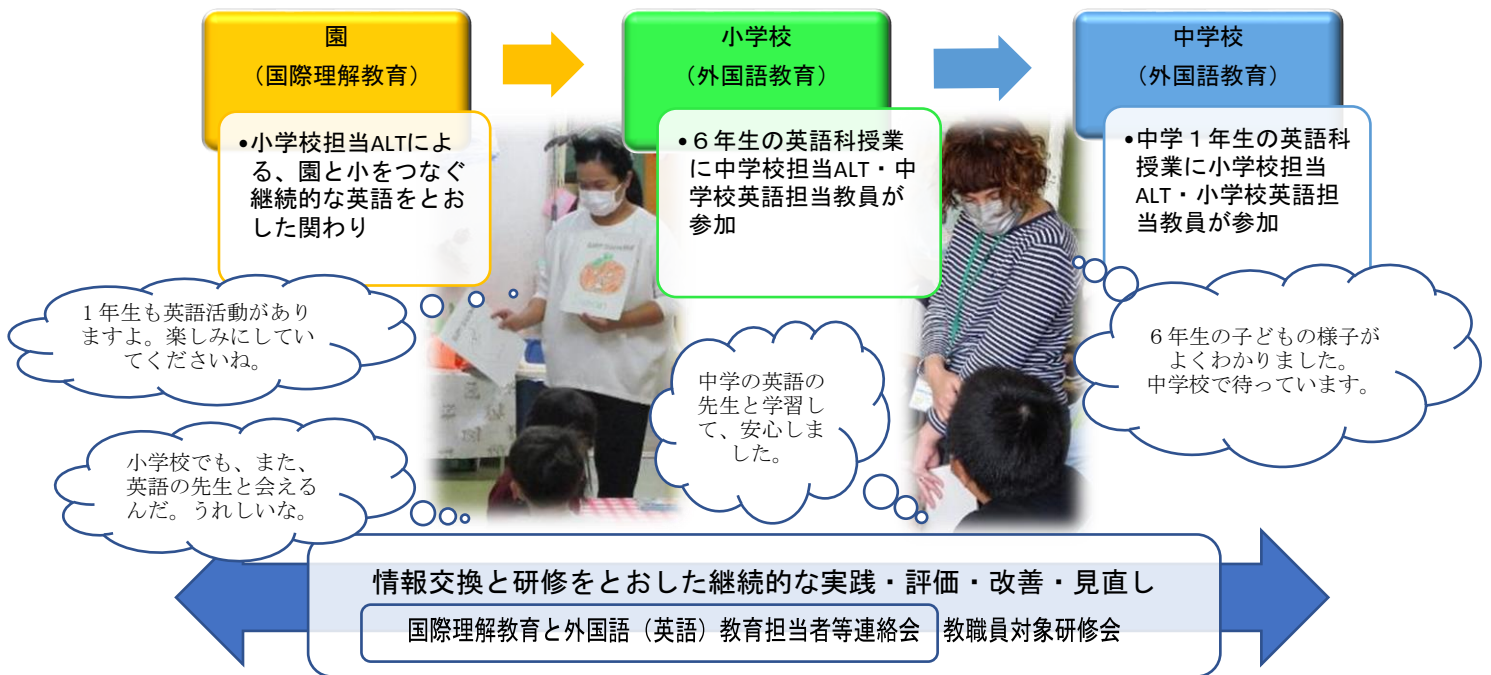
③ 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」推進の重点内容

○ 異校種間交流の推進

- 一貫教育・保育の視点を盛り込み、より効果的な子どもたちの交流をめざします。
- 異校種間での専門性を生かした教職員の授業交流や助言、研修の機会提供等を行い、積極的に連携を推進します。

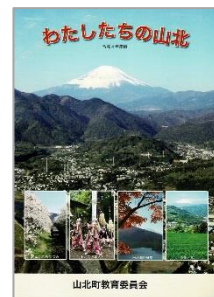
○ 「外国語（英語）」をとおした滑らかな異校種間接続

- 本町では、全ての園・学校の子どもたちが、外国人講師のALT (Assistant Language Teacher) と楽しく触れ合ったりコミュニケーションをとったりしながら、英語や異なる国の文化を学んでいます。そのよさを滑らかな異校種間接続に活かしていきます。
- 小・中学校の英語科担当教員も異校種間授業を行います。
- 本町と外国の幼児・児童・生徒が、インターネットを介して交流できる環境整備を推進します。

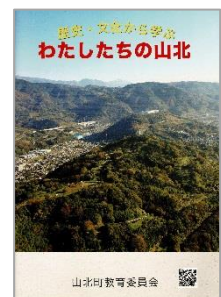


○ 郷土愛の育成

- 豊かな自然や歴史遺産にも数多く恵まれた山北町の環境を生かし、それを享受する十分な学びを整える取り組みを進めます。
- 社会科副読本「わたしたちの山北」「歴史・文化から学ぶ わたしたちの山北」(山北町教育委員会作成)をより効果的に活用します。



「わたしたちの山北」
● 3・4年用



「歴史・文化から学ぶ
わたしたちの山北」
5・6年用

<園>

山北にふれる

- 園外保育等で、地域の自然、人、施設等を知る活動を積極的に行います。
- 園外保育活動の中に、小学校、中学校等への訪問を意識的に組み込み、滑らかな接続へとつなげていきます。

<小学校>

山北を知る・山北を学ぶ

- 様々な学習の中で、山北の自然や歴史・文化や行事に触れる、調べる、参加することをおして、地域や地域活動に主体的に関わろうとする態度や意欲の育成を図ります。
- 三保地区、清水地区、共和地区等を訪れたり調べたりして、町全体の歴史や産業等にかかわる人々の思いについて考え、山北を誇りに思う心を育てます。

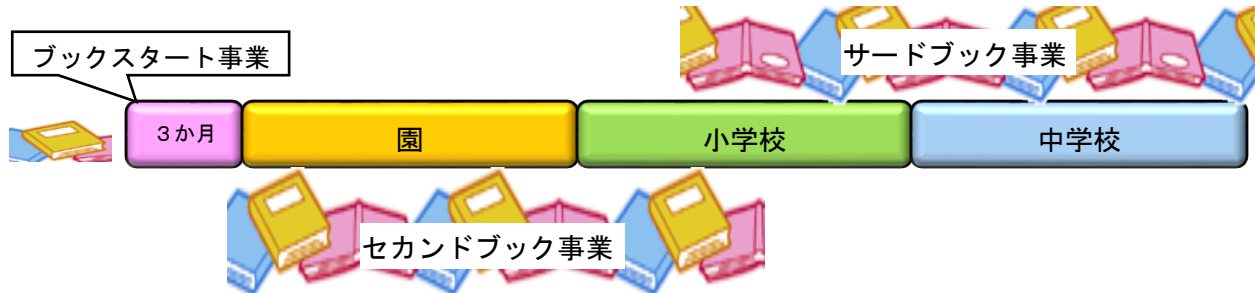
<中学校>

山北に学ぶ・山北に広げる

- 園、小学校での地域学習経験を総合学習等に取り入れ、よりグローバルな視点から地域を見つめ、歴史文化にあふれる山北町の良さを再認識する学びを進めます。
- 地域ボランティア等の地域貢献への積極的な参加を促し、地域の人々とのかかわりをおして、郷土を愛し、山北町の将来に広く関わる人材を育成します。

○ 読書活動の推進

- 令和3年3月に策定された「第二次山北町子ども読書活動推進計画」に基づき、園・学校と町の図書室が連携し子どもたちの成長に応じた読書のきっかけ作りや読書活動の習慣化に向けて、計画的に取り組めます。



○ 人権教育の推進

- 日常的に人権感覚を磨くとともに、各種人権研修会等への参加等をおして、人権感覚・人権意識の高い教職員を育成します。
- 「人権尊重のまちづくり」の基本方針をもとに、多種多様な人々との共生と、誰もが幸せに暮らすことができる地域社会の創り手となる子どもたちの人権感覚・人権意識を高める取り組みを年間計画に位置づけて、実践していきます。
- 仲間の思いを感じ、受け止め、互いを認め合う子どもたちの育成のために、園・学校生活全般で、他者と関わる場を意図的・積極的に設定していきます。

○ G I G Aスクール構想の推進

- 主体的・対話的で深い学びを進めるために、職員研修の実施とICT支援員等との協議をおして、子どもたちにとって最適なICT機器の効果的な活用方法について検討します。
- 園では、通信環境と職員用端末等の整備を行い、園と学校間のオンラインによる連携ができるようにします。
- 小・中学校のICT機器に導入した教育プログラムの双方向機能を生かし、個別の学びや協働での学びを促進するとともに、家庭との連携等を図っていきます。



○ 食育の推進

- 町教育研究会「栄養士部会」と町食育担当者会議が連携し、日々の給食をとおして子どもたちへの食育を推進します。
- 各園・学校を中心に、発達段階に応じた「おべんとうの日」の取り組みを行い、子どもたちの食に関する関心や実践力を継続的に育てていきます。

(3) 地域とともにある「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進のために

① 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の拡充

○ 3園（幼稚園・保育園・こども園）をコミュニティ・スクール化

- 小・中学校とともに、地域と協働しての教育活動がよりよく展開できるように、幼稚園・保育園・こども園もコミュニティ・スクール化し、3園について一つの学校運営協議会を設置します。

○ コミュニティ・スクールへの理解を深めるための研修機会の提供

- 「0歳から15歳までの教育・保育」も含めたコミュニティ・スクールへの理解を深めるために、保護者・地域住民・教職員を対象にした研修の機会を適切に提供します。

○ 学校運営協議委員の異校種教育方針等の理解促進

- 学校運営協議会各種会議等の合同開催等をとおして、各学校で育成をめざす資質・能力や教育目標、それらに基づく教育課程編成の基本方針などを、学校・保護者・地域で共有します。

② 一貫教育・保育を支える「チーム山北」体制づくり

○ 地域全体で子どもを支える取り組みの推進

- 園・学校と地域がパートナーとなって子どもたちの学びや成長を支えていくために、登下校の見守り、花壇や園・学校周辺環境の整備、本の読み聞かせ、教育・保育活動の補助や支援、学びのプログラムの提供など、地域住民が積極的に参画・協力しやすい体制づくりを進めます。

③ 県立山北高等学校との連携

○ 県立山北高等学校生徒との交流

- 文部科学省委託「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」で立ち上げた「やまきた未来コンソーシアム⁶⁾」の一環として園・学校との連携実績や成果を生かし、山北高等学校での地域学習成果の還元、授業・保育参

⁶⁾ やまきた未来コンソーシアム⁶⁾ 県立山北高等学校と地域協働する関係機関で構成された共同体の名称

観やインターンシップの受け入れ、子どもたちとの交流の場を計画的に設けます。

- 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」に加えて「山北高等学校のスクール・ミッション」に基づき、高等学校卒業時までを合わせた連携教育をめざした取り組みを進めます。

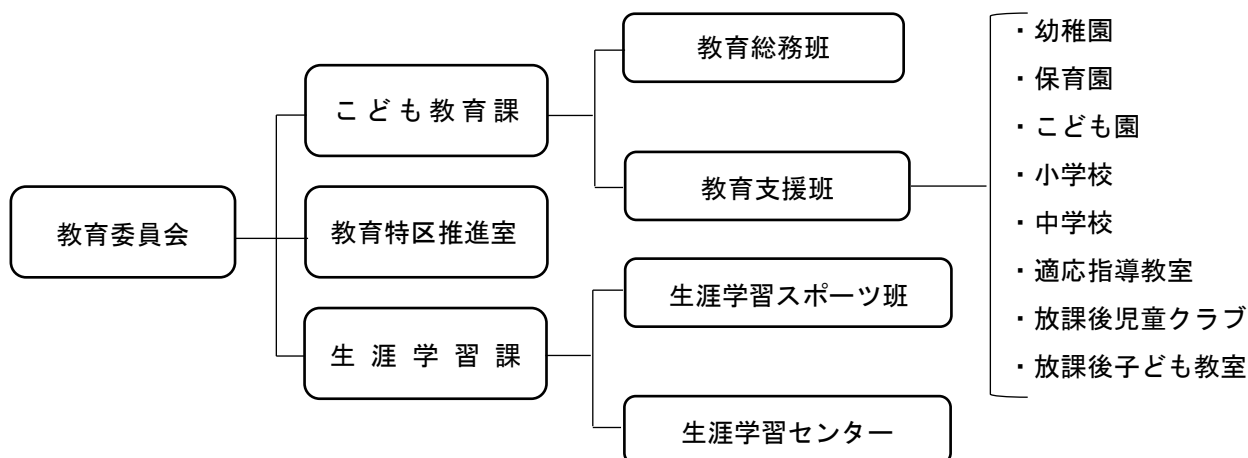


(4) 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」推進体制の確立のために

① 組織体制の確立

○ 「教育・保育」と「子育て支援」を一貫する組織作り

- 適切な支援や援助等を行いながら、一貫して教育・保育活動を進めていくために、教育委員会と福祉課（子ども支援班）間の組織改編を行うとともに、各種行政機関、関係機関との連携強化を図ります。



② 切れ目のない支援体制の確立

○ 園・学校・教育委員会・関連機関の連携

- 心理士による巡回相談の継続、巡回相談で得られた情報の共有、関係機関等との連携会議の充実と支援シート等の継続的な活用を図ります。
- 町主催連絡会や各園・学校間で、情報共有し意見交換を行い、今後の支援計画を充実したものにします。
- 卒園・卒業後の進学先での子どもの様子も含めて各発達段階の子ども理解と指導についての情報共有を行い、全教職員が同じ意識で協力する体制を組んでいきます。
- 放課後児童クラブ・放課後子ども教室との連携協力体制の強化を図ります。

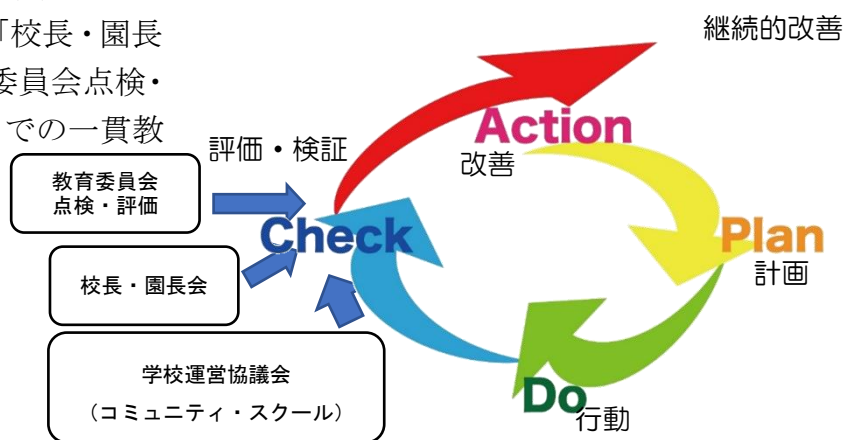
○ 支援の必要な子どもへの支援体制

- 障がいのある子どもに対し、「ともに学び、ともに育つ」環境を保障し、個性や特性、能力に適した切れ目のない指導・支援の継続を行います。
- インクルーシブ教育における、支援を必要とする一人ひとりの子どものニーズに応じたきめ細かな指導と支援体制の整備を進めます。
- 接続期では、各園・各学校間で情報交換を密に行い、介助員や教育相談コーディネーター、心理士等とも連携して個別の支援計画を作成し、支援シートの共有等を行います。

(5) PDCAサイクルに基づく評価と改善のために

計画・行動・評価・改善を継続的に各園・学校で行い、年度末に、「校長・園長会」「学校運営協議会」「教育委員会点検・評価」で、「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の実施状況を総合的に把握し、改善を継続的に行っていきます。

その結果を「山北町豊かな学び研究会」で共有し、各園・学校での実践につなげていきます。



4 今後について

(1) 取り組みの形態

令和4年度から、現行の園・小学校・中学校の名称・施設（施設分離型の形態）で、「0歳から15歳までの一貫教育・保育教育」に取り組めます。

(2) 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」のための運営体制

「山北町豊かな学び研究会」を教育委員会内に設置し、推進にあたり必要となる事項等について、協議・検討・見直しを行います。

(3) コミュニティ・スクールの機能拡張

「0歳から15歳までの一貫教育・保育」推進によりコミュニティ・スクール化した園・学校を、教育活動を中心に町民の生涯学習の場として機能できるように運営体制等の整備に努めます。



資 料 編

山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」推進検討委員会 委員名簿

役 職	氏 名	所 属
園 長	石 川 好 美	やまきたこども園
小 学 校 教 頭	大 越 泰 子	川 村 小 学 校
中 学 校 教 頭	佐 藤 康 二	山 北 中 学 校
副 主 幹	磯 崎 晃	山 北 町 福 祉 課
主幹兼指導主事	八 崎 任 希	山北町教育委員会 学 校 教 育 課
教育専任指導員	山 崎 恵 美 子	

山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」推進検討委員会の審議経過

実施日	会議等	内 容
令和3年5月31日	第一回推進検討委員会	○基本方針策定に向けた課題整理 ○基本方針（素案）について
令和3年8月31日	第二回推進検討委員会	○基本方針（素案）についての検討
令和3年10月21日	第三回推進検討委員会	○基本方針策定（素案）の確認・修正について
令和4年2月14日	第四回推進検討委員会	○基本方針策定（案）の確認について

